

解 答	1 (D)	2 (D)	3 (A)	4 (C)	5 (D)	6 (C)
	7 (A)	8 (B)	9 (A)	10 (C)	11 (B)	12 (B)
	13 (C)	14 (D)	15 (B)	16 (A)	17 (B)	18 (D)
	19 (D)	20 (B)				

1. 「私はこの映画を以前に観たかもしれないが、確信は持てない」
 ▶ before「以前に」が使われていることに注目すると、過去の経験についての現在時における推量を表すmay have done「～した[だった]かもしれない」を用いればよいとわかる。

□ **may have done** 「～した[だった]かもしれない」

▶ 過去のことに対する現在の『確信の持てない推量』を表す。

You *may have heard* this joke before.

(この冗談は前に聞いたことがあるかもしれませんね。)

▶ **might have done** もほぼ同じ意味を表す。

The keys *might have fallen out of your pocket*.

(カギはあなたのポケットから落ちたのかもしれないですね。)

2. 「私たちの先生は、生徒たちから批判されることに慣れている」

▶ 空欄のあとがbeing criticized「批判されること」と動名詞になっていることから、動名詞を用いる慣用表現be used to doing「～することに慣れている」を用いればよい。

□ **be used to doing** [名詞] 「～に慣れている」 (= **be accustomed to + doing** [名詞])

The boy *is used to making* his own breakfast.

(その男の子は、自分で朝食を作ることに慣れている。)

形のまぎらわしいused toの区別

① used to do	「以前はよく～したものだ」	[used to=助動詞]
② be used to doing	「～することに慣れている」	[used=形容詞/to=前置詞]
③ be used to do	「～するのに使われる」	
[used=useの過去分詞 : be used(受動態)+ to do(目的を表す不定詞)]		

3. 「スーザンはジョンに、彼女の計画が彼のものより良いと納得させねばならなかった」

▶ 主節の動詞がないため、空欄には動詞(句)が入り、全体でthat以下を名詞節として目的語にとるSVOOの文になると考えられる。convince A that～で「～ということをA(人)に納得させる」という意味であるから、had to convinceを入れると適切な文になる。

□ **convince A that** ~ 「A(人)に～だと納得させる」

I *convinced him that she was sincere*.

(彼に彼女の誠実さを納得させた。)

cf. **convince A of B** 「AにBを確信させる」

I *couldn't convince myself of the truthfulness of his claim*.

(彼の主張の正しさに確信が持てなかった。)

4. 「万一助けが必要でしたら、お気軽に問い合わせ窓口にご連絡ください」

▶ コンマの後の文が、「お気軽に問い合わせ窓口にご連絡ください」という意味であることから、前半は「もし～の場合には」という条件節になると予想できる。

(C)Shouldを入れれば、If you should require any assistance「もし万が一助けが必要でしたら」のifが省略された形の倒置文となり、意味が通る。

□ **If + S + should do** ~ 「万一～ならば」

▶ if節で使われるshouldは「実現の可能性が低い」という話し手の判断を表す。

まったく不可能なことを表すときには、shouldは使えない。

If he *should change his mind*, he *would call me*.

(もし彼が考えを変えるようなことがあれば、私に電話してくるだろう。)

► if S should ~の表現に限って、主節が命令文になることもある。

If you *should* see John, ask him to call me.

(もしジョンに会うことがあったら、私に電話するように言ってくれ。)

5. 「子供にとって、基本的な交通安全について理解することはとても重要である」

► basic traffic ()という名詞句がunderstandの目的語になっているので、空欄には名詞が入る。選択肢の中で名詞は(D)safetyのみ。traffic safetyで「交通安全」という意味になる。

□ **It is ... (for A) to do** 「(Aが[Aにとって])～することは…だ」

► Itは形式主語で、後にくる事実上の主語である不定詞句を受けている。to以下が真の主語であるからItを「それ」と訳さない。不定詞の意味上の主語を表す必要がある場合は、for Aで表す。

It is necessary for you to go there immediately.

(あなたはすぐにそこへ行く必要がある。)

6. 「この包みはあまりに重すぎてメラニーには運ぶことができない」

► 英文の最後のto carryに注目すれば、too+形容詞[副詞]+for A to do「あまりに～なのでAは…できない」の構文を用いればよいことがわかる。far「はるかに」はtooの強調。(A)は語順がmuch tooならば正解。(D)enough+形容詞[副詞]+for A to do「Aが…するのに十分な～」では文意が通らない。

□ **too ... to do** 「とても…なので～できない/～するには…すぎる」

This coffee is *too hot for me to drink.*

(このコーヒーは熱すぎて私には飲めない。)

► この構文はso ... that S can't doで書き換えられる。

This coffee is *so hot that I can't drink it.*

► 文の主語と不定詞の目的語が一致している時には、不定詞の目的語を省略する点に注意。^xto drink it

► for meはto drinkの意味上の主語を表す。

7. 「異常気象が原因で今年は早い時期に桜が咲いた」

► 空欄後にはthe unusual weather conditionsという名詞句が続いている、空欄の前の部分の理由になっている。名詞が続くので、理由を示す表現として接続詞は使えず、適切なものは(A)due toである。

□ **due to ~** 「～のために/～が原因で」 (= owing to/because of/on account of)

I was half an hour late due to the heavy traffic.

(車が多かったので、半時間遅れました。)

► due to ~は群前置詞としての用法のほかに、**be due to ~** 「～のため[せい]である/～による」の形も必ず押されること。

His big success was due to his patience and diligence.

(彼の大成功は忍耐と勤勉によるものである。)

8. 「雨が降ると行けないので、ジェニーは傘を持ってきた」

► 選択肢は全て接続詞なので、空欄前後の文脈がつながるようなものを選ぶ。

Jenny brought an umbrella「ジェニーが傘を持ってきた」のは、it rains「雨が降る」ことに備えてのことだから、(B)in case S+V「SがVするといけないので」が適切である。

□ **in case S+V** 「～するといけないから/～の場合に備えて」

I'll take an umbrella *in case* it rains.

(雨が降るといけないから傘を持っていこう。)

► in caseには「もし[万一]～ならば/～の場合には」 (= if)の意味もある。

In case I'm late, start without me.

(私が遅れたら、私ぬきで始めてください。)

9. 「私はこの道具を発見した。これは何のための道具か誰か知っているだろうか？」
- ▶ 空欄前のit'sはit isの縮約形であるので、名詞である(B), (C)は不適。itは道具のことであるので、(A)が適当である。このforは目的を表す前置詞。
- [例] What did the police come here **for**?
 (なぜ警察はここに来たのですか。)
- What ~ for?** 「何のために～/なぜ～」 (= **Why ~ ?**)
 What are you following me **for**? (= **Why are you following me?**)
 (なぜ私の後をつけてくるの。)
10. 「マシューは高校時代からずっと空手を続けている」
- ▶ 現在完了進行形(has been doing karate)を用いていることから、継続用法の現在完了形だということがわかる。空所に(C)sinceを入れれば、「高校生のとき以来ずっと空手を続けている」という意味になり、自然な英文になる。
11. 「アヤの助けのおかげで、私たちのハワイ旅行はとても実りの多いものだった」
- ▶ () toの後が, Aya's helpと名詞であるので、(C)は不可。help「助け」という言葉から、(B)Thanks to ~「～のおかげで」が最適であるとわかる。
- according to ~** 「(情報源)によれば/～に従って」
 in order to do 「～するために/～するように」 (= **so as to do**)
 in addition to ~ 「～に加えて/～のほかに」 (= **besides ~**)
12. 「天気が悪かったので、我々は列車の遅延が不可避であるということを受け入れねばならなかった」
- ▶ 文法的に全ての選択肢が入ることができるので、英文の意味から考える。悪天候であれば列車の遅延は「避けがたい」ことなので、(B)unavoidable「避けられない」が正解である。その他は、(A)unexplainable「説明不可能な」、(C)interrupt「～を妨げる」、(D)incredible「信じられない」という意味である。
- [例] He said he had some **unavoidable** work he must attend to.
 (彼はどうしても片付けなければならない仕事があると言った。)
13. 「あなたはいつその計画を断念することを決めたのですか？」
- ▶ 選択肢すべてに他動詞の用法があるが、空欄の後のthe plan「計画」という目的語にとって最も自然な意味になるのは、(C)abandon「(計画など)を断念する」である。その他の選択肢は、(A)absent oneself from ~で「(学校・会合など)を欠席する」、(B)agree「～を承認する」、(D)attend「(学校・儀式・会合など)に出席する」という意味である。
14. 「ジェーンは車を駐車禁止区域に停めたので、1万円の罰金を払わねばならなかった」
- ▶ Janeは駐車違反をしたのであるから、支払わなければならるのは、(D)fine「罰金」である。(A)charge「(サービスに対する)料金/(電気・ガスなどの)公共料金」、(B)cost「(何かにかかる)費用/経費」、(C)fee「(専門職の人への)謝礼/報酬/(受験・入会・入場)料金」、(D)fine「罰金」
- | 『料金・お金』を表す名詞 | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> charge 「(サービスに対する)料金/(電気・ガスなどの)公共料金」 | <input type="checkbox"/> toll 「(有料道路などの)通行料」 |
| <input type="checkbox"/> fare 「(乗り物の)運賃」 | <input type="checkbox"/> fee 「(専門職の人へと)謝礼/報酬/(受験・入会・入場)料金」 |
| <input type="checkbox"/> tuition 「(大学・私立学校などの)授業料(tuition fee)」 | <input type="checkbox"/> price 「(商品の)値段」 |
| <input type="checkbox"/> cost 「(何かにかかる)費用/経費」 | <input type="checkbox"/> rent 「家賃/賃貸料」 |
| <input type="checkbox"/> fine[penalty] 「罰金」 | <input type="checkbox"/> pay 「給料/報酬」 |
| <input type="checkbox"/> admission 「入場料(admission fee[charge])」 | <input type="checkbox"/> tax 「税金」 |
| <input type="checkbox"/> commission 「手数料/歩合」 | <input type="checkbox"/> profit 「利益」 |
| <input type="checkbox"/> cash 「現金」 | <input type="checkbox"/> check 「小切手」 |
| | <input type="checkbox"/> bill 「請求書/勘定」 |
15. 「ジョンはアマチュア写真家であるので、彼の仕事に対して報酬は支払われていない」
- ▶ 選択肢がすべて形容詞であるので、文意に沿ったものを選ぶ。therefore以下の内

容より、Johnは報酬を得ていないのだから、(B)amateur「アマチュア」の写真家ということになる。

その他の選択肢は、(A)professional「専門職の、プロの」、(C)impressive「印象的な」、(D)technical「工業技術の、専門的な」という意味である。

□ **get + 過去分詞 「～される」**

My glasses **got broken** while I was playing soccer.

(サッカーをしていた時に、私のメガネが壊れた。)

▶ 受動態を作るのに、**be動詞の代わりにgetを使うことがある。** getを使うのは、「～になった」のように**変化を表す場合**である。

16. 「多くの政治家たちは選挙運動中にした約束を実行しない」

▶ 空欄の後のthe promises「約束」を目的語にとって最も自然な意味になるのは、「～を実現する、～を果たす」の(B)fulfillである。

その他の選択肢は、(B)attract「～を引きつける」、(C)engage「～を引きつける、従事する[in ~]」、(D)bother「～を悩ます」という意味である。

17. 「悪天候のため、飛行機の出発が遅れそうである」

▶ 英文の意味から考える。the poor weather「悪天候」によって flight's departure「飛行機の出発」が be delayed「遅れる」ことはよくあることであるから、(B)を入れて be likely to do「～しそうである」とするのが正解である。

□ **be likely to do 「～しそうである」 ⇔ be unlikely to do 「～しそうもない」**

She is **likely to win** the race.

(彼女はそのレースに勝ちそうだ。)

▶ 形式主語を用いて、**It is likely that ...**と書き換えることができる。

It is likely that she will win the race.

□ **be determined to do 「～することを堅く決心[決意]している」**

I am **determined to go** to the party.

(私はパーティーに行く決心をしています。)

18. 「今年の卒業式において、サリーは傑出した学業成績に対して賞を受けた」

▶ 語尾に-ingがついた選択肢が並んでいるが、動名詞と形容詞が混在している。(A)、(B)を空欄に入れて、academic achievementを続けるには前置詞が必要である。

文脈から、卒業式に表彰されるのは成績が優秀だからであると考えられるので、(D)outstanding「傑出した、優秀な」が正解である。

その他の選択肢は、(A)participate「(～に)参加する [in]」、(B)persist「(～に)固執する [in]」、(C)succeeding「(～に)次々、繰り返して起こる」という意味である。

19. 「私が父親の金時計を壊したことをいすれ許してもらうまでに、長い時間がかかるだろう」

▶ 過ちや罪を「許す」という場合には(D)forgiveを用いる。(A)admitは入会・入場などを許す場合に、また(B)allowや(C)permitは何かを行うことを許可する場合などに用いる。

forgive/permit/allow/admitの使い分け	
□ forgive/excuse	「(すでに犯した罪や過ち)を許す」 forgive A for B = excuse A for B 「AのBを許す」
□ permit/allow	「(これからあることをするの)を許す」 permit A to do = allow A to do 「Aが～するのを許す」
□ admit	①「(仕方なく)～を(事実だと)認める」 ②「(入ること)を認める/許す」

20. 「この季節にしてはとても異常な気象だ」

▶ time of yearで「時節、季節」という意味の慣用表現。seasonを用いる場合はyearに定冠詞theがつくのが普通。その他は、(A)period「期間、時期」、(C)season「季節」、(D)month「月」という意味である。